

会員数	35,390	(前月比) + 83
郵送	8,850	(前月比) + 70
手配り	24,331	(前月比) + 85
協同基金到達額	2,450,985,000円(5/31現在) [前月比 7,249,000減]	
協同基金出資者数	12,470名(5/31現在)	
いのちを守る助け合い募金額	8,374円(5/1~31)	



発行
健康友の会 みみはら
民医連
本部事務局組織部
機関紙編集委員会
〒590-0824
堺市堺区老松町2丁58-1
Tel.072-244-8061
Fax.072-244-7860
1部30円

健康友の会みみはら総会
新病気を新たな民医連運動の拠点とし、患者がくらし生活に地域で生かされるように
中心で健康友の会が、ブロック・支部単位で、まろく健康づくりに奮闘しよう!

健康友の会みみはら 第28回総会



地域の役に立ち、 要求にこたえたる友の会を



健康友の会みみはら総会が5月30日に開催され86人が参加しました。
議案提案に先立ち、森島会長から「昨年度健康友の会みみはらは、21支部7つのたまり場であったのが、22支部と9つのたまり場に前進しました。今年度は友の会2020年ビジョン最初の年。そのビジョンをどう進めるか、議論できる総会にしましょう」とあいさつがありました。

この5年間「2015年ビジョン」にそって、「地域の役に立ち、要求にこたえたる友の会を」と、支部を基礎に友の会活動を進めてきました。支部の分割や、たまり場の増設などにより、私たちの活動は確実に前進しています。また新病院の建設を同仁会と一緒に

確認された 主な今年度方針

- ・健康づくり
支部ごとに目標を明確にして、事業所と共同で特定健診やガン検診を推進します。
- ・まちづくり
介護保険からは外れたちよことしたことで困っている人を支える「ワンコイン助っ人隊」を本格的にスタートします。
- ・「とも」の配布
「とも」の手配り率は73%となっています。各支部で手配りを充実するためのネットワークづくりをめざします。

成功させ4月1日に無事オープンさせることが出来ました。今総会では、「2015年ビジョン」の到達を明らかにし、新たに「健康友の会みみはら2020年の姿とビジョン」が前田事務局長から提案され拍手で確認されました。

支部ごとに目標を持ち、全体で一億円と協同基金協力者比率50%をめざします。
・協同基金
会員比率3% (1000)

・楽しい行事
会員が楽しく交流できる行事を、支部や班を基本に計画します。そのためにも、全支部にたまり場、センターの設置を推進します。
・組織運営
事務局の専任配置をさらに増やし、会員自らブロック支部協議会、支部、班を支え推進する体制を強化します。

部)をめざします。
・平和、社会保障、国民共同の取り組み
安倍政権による政治の下で平和や社会保障が壊されないようにするために、他団体とも共同して憲法や社会保障を守っていきます。
・協同の営み
地域の役に立ち、要求にこたえたるため、同仁会グループの役員と一緒に事業所づくりや運営に、民医連職員の育成も含めて関わっていきます。

2015年度 代表世話人名簿

ブロック	支部	氏名	新・再
総合病院	東 西	建井 憲二	新任
	みなと	○亀田 孝則	再任
	大 浜	島谷 幸子	再任
鳳クリニック	大 仙 西	山本すえの	新任
	鳳	小倉 孝雄	新任
	ふくいずみ	○江戸 道子	再任
中 区	和 泉	鯛天 満広	再任
	中区ブロック	○林 正二郎	再任
	八田・宮園	丸井 文子	再任
ファミリククリニック	南 花 田	中井眞砂代	再任
	新 金 岡	澤田 節子	再任
	高 石 東	◎森島 嘉之	再任
高 石 北	高 石 北	寺西 滯子	再任
	泉ヶ丘 西	大槻 洋子	再任
	美 木 多	城 里美	新任
南 区	事務局 長	前田 貢光	再任
	事務局 次長	齊藤 毅	再任

青い海原、浮かぶ緑の島々。島と島を結ぶ橋。大阪から観光バスに羽の生えたような小さな双発の飛行機でついたのは、天草です。海岸には古い教会が並び立ち、海には野生のイルカが泳ぎまわる自然豊かな、歴史を感じる島です。その対岸には有機水銀を不知火海に垂れ流したチソ水俣工場のある、水俣病の語源ともなった水俣市があります。水俣市を超え山深い地にも、豊かな自然が残っています▼公式発表から59年を経てもなお解決しない水俣病の検診にかかり、今まで4度訪れた天草はゆっくりと観光で訪れたい素晴らしいところ。同じ魚を食べたのに、住む場所が違うだけで水俣病と認められない、山深く水俣から離れているとの理由で、行商から購入した魚を多食したにもかかわらず、水俣病と認められない、生まれた年代だけで認定されない、様々な苦悩を抱えながら生活している人たちがたくさんいます▼2年前のノーマア水俣国賠訴訟が和解した今でも、100名を超える人が大阪地裁に2次訴訟を起こし戦いを始めました。政府が、あたらつかぎりの保障を行うとした特措法を早々に打ち切り、残された人々の闘いです。現地熊本を始め、全国の民医連職員が熱い闘いを支えています。辺野古基地移転反対・ノーマア原発などと同じ住民を守る闘いです。(三宅徹也)

聴診器